

立教大学学術推進特別重点資金(立教SFR)

個人研究

2013年度研究成果報告書

研究代表者	所属・職名	氏名
	異文化コミュニケーション学部・教授	細井尚子 印
研究課題	日本・沖縄・台湾の大衆芸能と近代化に関する比較研究―「おんな子供」の歌劇を例に―	
研究期間	2013年度	
研究経費	(支出金額) 1,000,000円 / (採択金額) 1,000,000円	

研究の概要(200~300字で記入、図・グラフは使用しないこと)

娯楽市場において近代化の下に誕生した大衆芸能のうち、「おんな子供のもの」と見做されてきた日本の少女歌劇、沖縄の琉球歌劇、台湾の歌舞劇を対象に、(1)各々の社会の娯楽市場における「近代化」とは何だったのかを解明する、(2)日本の少女歌劇、沖縄の琉球歌劇、台湾の歌舞劇を、各々の国・地域の演劇・芸能史上に定位することを最終的な目的とし、各々の資料収集・分析を行った。また、日本と台湾、沖縄の文化上の関係把握において、韓国の「少女歌劇」系芸能調査を補助線として実施した。更には昨今の日中韓の政治的状況を考慮し研究の順調な展開を確保するため、台湾で研究ネットワークの構築と研究会組織成立のための基盤作りも行った。

キーワード(研究内容をよく表しているものを3項目以内で記入。)

[大衆娯楽市場] [近代化] [少女歌劇系芸能]

研究成果の概要 (図・グラフ等は使用しないこと。)

最終目的を達成するため、以下の4項目の活動を同時並行的に実施し、不足資料の収集・分析を行った：

1) 沖縄の琉球歌劇の調査・資料収集・分析

琉球歌劇に関する現存資料は非常に乏しく、現時点では大野道雄『沖縄芝居とその周辺』(みずほ出版 2003 当時の新聞記事を参照して最も網羅的)、仲程昌憲『琉球歌劇の周辺』(ひるぎ社 1994 代表的な作品の分析、民謡研究)のほかは演者の自伝である真喜志康忠『沖縄芝居とともに 老役者の独り言』、写真集である『沖縄芝居 仲田幸子一行物語 石川真生写真集』など非常に限られている。一方で現在も上演活動を続ける一座が少数あり、更に全盛期の琉球歌劇の観客であった高齢の女性たちが健在であるため、聞き取り調査による一次資料の収集を中心に行った。また、本土化政策に拠る琉球歌劇圧迫の状況を把握するため、官側の資料収集と関連新聞記事の収集も行った。

2) 台湾歌舞劇の調査・資料収集・分析

台湾歌舞劇も上記の沖縄の琉球歌劇と類似の状況である。直近まで活動していた芸霞歌舞団のトップスター、関係者、及び観客が健在であり、聞き取り調査による一次資料の収集を優先的に行った。また、当事者のみが保存している上演資料等の複写による収集、土地開発・興行を巡る環境に拠る上演劇場の減少を政府側の経済政策資料等を用いて把握に努めた。特に聞き取り調査は、予想以上に順調に進み、また現地の研究者と連携して、その研究蓄積を活用できる形も整えることが出来た。その結果、拱楽社歌舞劇団と芸霞歌舞団の相違点も明確になり、台湾娛樂市場における多様性を抽出できた。

3) 日本の少女歌劇の資料収集・分析

文献が少ない少女歌劇群の資料補強。具体的には松竹歌劇は松竹の興行戦略関連、白木屋百貨店の少女歌劇関連の新聞記事など、地方の少女歌劇は地方志、郷土研究関連からの資料収集に着手した。特に白木屋関連は所在調査に困難が多く、単年度では関係者(演者・制作者など)・当事者まで辿りつけず、継続して取り組む。

4) 台湾における研究ネットワークの構築と研究会組織成立のための基盤作り

台湾の大衆芸能・演劇研究者のネットワーク化、継続的な研究会を大学機関を母体に組織し、共同研究体制を構築すべく準備が進行している。

5) 韓国の「少女歌劇」系芸能である女性国劇の資料収集

上記により収集した資料の分析を基に、

- ・日本の少女歌劇、沖縄の琉球歌劇、台湾歌舞劇各々と伝統文化との関係の考察
- ・日本の少女歌劇、沖縄の琉球歌劇、台湾歌舞劇各々の観客として「おんな子供」を生んだ各々の社会状況・教育面の考察
- ・日本の少女歌劇、沖縄の琉球歌劇、台湾歌舞劇各々の興行に関する資料収集と比較分析
- ・沖縄と台湾の娛樂市場に現れた近代化(日本化)の比較考察

を進める中で、韓国の女性国劇を補助線として、大衆芸能(「少女歌劇」系芸能)における近代化について台湾、沖縄と日本の関係、台湾と沖縄の類似性・相違性、韓国と台湾の相違性などが明確になり、東アジアという枠組みで、近代文化における「西洋」と「非西洋」という視点が有効であることが分かってきた。その端緒は、日本の「少女歌劇」系芸能を手本として形成された台湾の代表的な歌舞劇団である拱楽社歌舞劇団、芸霞歌舞団の資料収集、関係者インタビューの蓄積が進む中で、日本の「少女歌劇」系芸能における「西洋」が、台湾の歌舞劇における「日本」であり、

研究成果の概要 (つづき)

その何をもって自己表象としたのかが、具体的に分かり始めたことによる。

台湾歌舞劇における「西洋」である日本の「少女歌劇」系芸能の受容の仕方が明確になるにつれ、沖縄の琉球歌劇に関しても、資料収集・分析、関係者インタビューを通じて収集した資料を分析するに当たり、日本という視座を据えることによって、沖縄と台湾の類似性・相違性が明確になりつつある。

今後は、本 S F R の研究の発展的研究として、日本、沖縄、台湾に韓国、中国も加えた東アジア文化圏という枠組みで、「非西洋」がどのように「西洋」を用いて「近代」の無形文化として自己表象を行ったのかについて研究する。

研究発表 (研究によって得られた研究経過・成果を発表した①～④について、該当するものを記入してください。該当するものが多い場合は主要なものを抜粋してください。)

- ① 雑誌論文 (著者名、論文標題、雑誌名、巻号、発行年、ページ)
- ② 図書 (著者名、出版社、書名、発行年、総ページ数)
- ③ シンポジウム・公開講演会等の開催 (会名、開催日、開催場所)
- ④ その他 (学会発表、研究報告書の印刷等)

① 雑誌論文

「日本近代大衆娯楽市場之特性—従百貨公司与少女歌劇」「日本近代の大衆娯楽市場の特性—デパートと少女歌劇から」『台閩民間戯劇国際学術研究会論文集』 pp. 393-452 国立台湾成功大学閩南文化中心 2013年11月

② 図書

「越劇と『少女歌劇』」中山文編『越劇入門』概説編 pp. 1-29 水山産業 2014年3月

「東アジア演劇世界と宝塚歌劇」『歌舞伎と宝塚歌劇—相反する、密なる百年』2014年3月
*3月28日発行予定

「東アジアの少女歌劇系芸態—中国・台湾・韓国・沖縄—」中野正昭編『少女歌劇とレビュー』(仮題) 2014年6月刊行予定

③ シンポジウム・公開講演会等の開催

<2013年>

2013年6月22・23日日本演劇学会大会 (共立女子大)

「百貨店と演劇興行から見た東アジアの中の宝塚歌劇」パネル・セッション「東アジアの演劇市場における〈近代〉としての宝塚歌劇—娯楽、展示、集団、学制—」パネラー

6月24日「台湾の大衆娯楽における『少女歌劇』的なるもの」講師邱坤良氏 (台湾芸術大学教授) アジア地域研究所主催 (立教大学) (企画・協力)

9月29日「越劇と『少女歌劇』」越劇友の会研究例会 (神戸学院大学)

10月18日「宝塚歌劇」

「『宝塚歌劇』を知る」と題した講演会初回・「宝塚歌劇演出家草野旦を語る」(講師草野旦氏) と二部構成 (早稲田大学)

10月19日「宝塚歌劇」

「『宝塚歌劇』を知る」と題した講演会2回目・「『宝塚歌劇』の作り方」(講師草野旦氏・愛華みれ氏) と二部構成 (異文化コミュニケーション学部主催・立教大学)

11月2日「日本的少女歌劇：宝塚歌劇与松竹歌劇」「歌・舞・劇—大衆娯楽日台比較研究討論会 (台北芸術大学)」

<2014年>

1月11日「宝塚歌劇考—日本演劇史において、アジア演劇市場において」(早稲田大学)

I. 問題提起—「東アジアの女性歌劇と宝塚」 細井尚子

II. トークセッション：司会：中野正昭、パネリスト(五十音順)：田畑きよ子 (元阪急文化財団池田文庫司書・学芸員)・細井尚子・村島彩加 (明治大学兼任講師)

④ その他

「宝塚歌劇考①」『歌劇』2月号 (通巻1049号) pp. 94-95 阪急コミュニケーションズ 2013年2月

「宝塚歌劇考⑧」『歌劇』9月号 (通巻1056号) pp. 74-75 阪急コミュニケーションズ 2013年9月